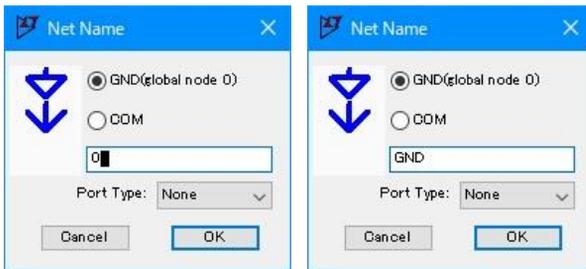


# グラウンドを示すラベル名称

まず初めに「ラベル名（ノードの名称）」全般について述べると、これは「文字列」で記述されている・・・ということである。古くから、SPICEのネットリストにおいて、ノード名を数字で記述してきたが、これは決して「数値」ではない。数字・・・すなわち単なる文字（あるいは文字列）である。

ただし、GNDを示す文字(列)として、「0」、「GND」がある。このラベル名は「グローバル・ノード」名であるので、階層化した回路図中で使っても、全体のグラウンドと接続される。



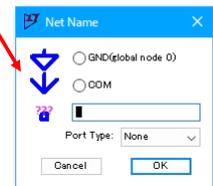
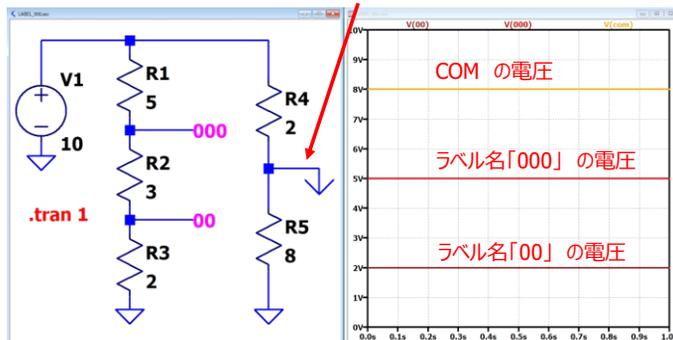
Net Name の入力窓の中に「0」あるいは「GND」と入力しても(左図)、回路図中に表示されるシンボルは二等辺三角形の「GND」記号である。



# ラベル名「00」と「COM」

Net Name の入力ダイアログボックスには、「COM」という名称の「矢印記号」がある。一見して「GND」の代用シンボルのようにも見えるが、単に「COM」という名称のラベルになる。ただし、ネット上には「COM」という名称は表示されない。

これと合わせて、ラベル名「00」と「000」を付けた回路を用意してシミュレーションしてみる（下図）。



シミュレーションでは、DC電源(10V)を抵抗で分圧し、各ノードの電圧を観測している。

それぞれのラベル名に対応した電圧が、期待した通りの値で表示されている。

このように、ラベル名「00」などは数値の「0」ではなく単なる文字列として扱われていることが確認できる。